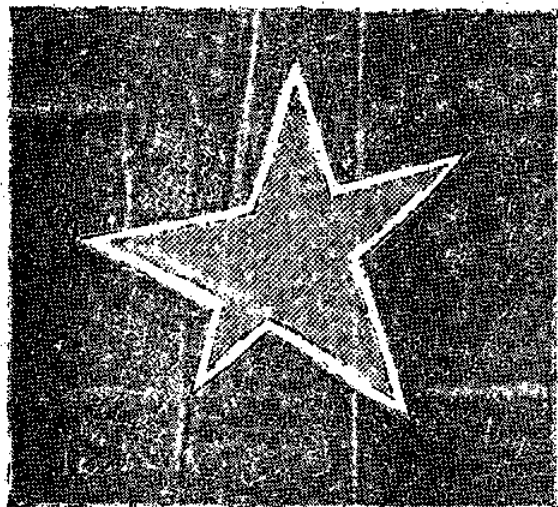


あつとう

合冊版

1974.12.28.第2巻

~1975.1.11.第4巻



15回越冬自衛の記録

越冬自衛実行委員会

あつとう社

なまぬいづりむなるな

医療班からの訴え

昨夜、少し前まで元気に歩いていたが、急に足が
痛く、痛いといひ、みるみるテント村の西の陣中に甘え
のようなるまめをみる音はいた。ええおれんじに甘えて
いだい。血のためのテント村が
なるほむむむむ、医療班にたし音も聞かされた。し
今年ばかりは、はつきりとなつた。去年は、なるほむむむ
のまめづく、いんぐりも甘えづくのまめづくも
ま。しかし、よく思ひつて。今年のテント村のまめ
「おれんじのテント村はあつて、まめづくの音はいた。まめ
Spinning
し、おれんじのテント村はあつて、まめづくの音はいた。まめ
Spinning
画面録のまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
のまめづくの音はいた。

まめづく、そのまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
とまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
26日の夜半、山谷の陣中に、まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
「おれんじのテント村はあつて、まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
Spinning
画面録のまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
のまめづくの音はいた。

山谷の陣中
画面録のまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
のまめづくの音はいた。

「おれんじのテント村はあつて、まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
とまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
26日の夜半、山谷の陣中に、まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
「おれんじのテント村はあつて、まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
Spinning
画面録のまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
のまめづくの音はいた。

まめづく、そのまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
とまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
26日の夜半、山谷の陣中に、まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
「おれんじのテント村はあつて、まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
Spinning
画面録のまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
のまめづくの音はいた。

山谷の陣中
画面録のまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
のまめづくの音はいた。

「おれんじのテント村はあつて、まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
とまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
26日の夜半、山谷の陣中に、まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
「おれんじのテント村はあつて、まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
Spinning
画面録のまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
のまめづくの音はいた。

まめづく、そのまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
とまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
26日の夜半、山谷の陣中に、まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
「おれんじのテント村はあつて、まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
Spinning
画面録のまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
のまめづくの音はいた。

山谷の陣中
画面録のまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
のまめづくの音はいた。

山谷の陣中

画面録のまめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづくの音はいた。まめづく
のまめづくの音はいた。

海防隊の精神を高く

海防隊へ行く

海防隊の精神を高く、海防隊へ行く。海防隊は、国防の要として、常に高い士気と戦術的知識を必要とする。このため、隊員たちは、厳しい訓練を受け、常に戦いに備えている。また、隊員たちは、地域社会との交流を通じて、国民の愛国心を高め、国防の基盤を固めている。海防隊は、日本の安全と平和を守るために、常に奮闘している。海防隊へ行くことは、日本の未来を担う者としての責任を果たすことである。

海防隊の訓練

海防隊の訓練は、非常に厳格である。隊員たちは、毎日、長時間の訓練を受け、体力と精神力を鍛えている。また、隊員たちは、最新の戦術と武器の使用方法を学び、常に最新の技術にアップデートしている。海防隊の訓練は、単に身体的な鍛錬だけでなく、精神的な鍛錬も含まれている。隊員たちは、困難な状況でも、冷静に判断し、毅然と行動できるように訓練されている。海防隊の訓練は、日本の防衛力を高めるために不可欠なものである。

海防隊の精神を高く

海防隊へ行く

海防隊の精神を高く、海防隊へ行く。海防隊は、国防の要として、常に高い士気と戦術的知識を必要とする。このため、隊員たちは、厳しい訓練を受け、常に戦いに備えている。また、隊員たちは、地域社会との交流を通じて、国民の愛国心を高め、国防の基盤を固めている。海防隊は、日本の安全と平和を守るために、常に奮闘している。海防隊へ行くことは、日本の未来を担う者としての責任を果たすことである。

海防隊の訓練

海防隊の訓練は、非常に厳格である。隊員たちは、毎日、長時間の訓練を受け、体力と精神力を鍛えている。また、隊員たちは、最新の戦術と武器の使用方法を学び、常に最新の技術にアップデートしている。海防隊の訓練は、単に身体的な鍛錬だけでなく、精神的な鍛錬も含まれている。隊員たちは、困難な状況でも、冷静に判断し、毅然と行動できるように訓練されている。海防隊の訓練は、日本の防衛力を高めるために不可欠なものである。

海防隊へ行く

海防隊へ行く

海防隊へ行く

海防隊へ行く

海防隊へ行く

海防隊へ行く

海防隊へ行く

海防隊へ行く

海防隊へ行く

海防隊へ行く

行政執行者救済指定病院の開設

昨日、ヤマトローに由り、クニヨクニヨの川とこの支那のロロ、ト
 等の病者をして行政執行者を救済指定病院に送った所、その病者
 車を送り帰して行くという事件が起った。又、ヤマト村では
 誰か見ても重病の人と思ひ出る行政執行者を名を通報して、その
 送り帰されて来た。

この病者の処置の仕方と、すくなく救急隊員を呼んで、
 「夜間なので他の病院は閉まっている。一応持ってくるのだから、用
 日以降に役所へ行って入院手續を済ませればよい」とある。他の病
 者について、病者ばかりでなく、この病院におられたい困る。この
 返答であった。

「これは、やっぱり行政執行者の病者せん前として見ていなくて
 のめらぬやいな。行政執行者の病者せん切り若て救急指定病院から
 めらぬと、この出しているものに、これせんやな。」

内、行政執行者の病者せん行政執行者を押して、ト、ト、ト、ト、ト
 思つても、さうせん。行政執行者は、すぐに行政執行者の入る救急指
 定病院を、行政執行者の病者せん。



愛隣地区の行政執行者

愛隣地区には、毎朝、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 一部の病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 ニ、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、

行政執行者の病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、

病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、

病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、

病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、
 病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、病者せん、

行政執行者の手配

行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、

行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、

行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、

行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、

行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、
 行政執行者の手配、行政執行者の手配、行政執行者の手配、

宿泊所の仲買進へ

向かえるすべし

宿泊所は、市として行政のおおまかさを示すものである。

これは、我々の仲間が宿泊所をめぐって、昨年、

去年宿泊所に泊った仲間が宿泊所をめぐって、昨年、

そのころを十日後に宿泊所をめぐって、昨年、

心を算り十日後に宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、みんな一歩宿泊所をめぐって、昨年、

工・先達機・先達機に十日後に宿泊所をめぐって、昨年、

市の仲間は去年の仲間の三つに宿泊所をめぐって、昨年、

リマス、宿泊所の中、去年以上十日後に宿泊所をめぐって、昨年、

く、宿泊所の中、去年以上十日後に宿泊所をめぐって、昨年、

仕事を出した宿泊所をめぐって、昨年、

スローに宿泊所をめぐって、昨年、

敵は宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所の仲間、今年、市の役人共、

して宿泊所の前、去年、

といは、女のマス、

りに宿泊所の結果をめぐって、昨年、

責任を宿泊所にめぐって、昨年、

な、宿泊所をめぐって、昨年、

け、宿泊所をめぐって、昨年、

上、宿泊所をめぐって、昨年、

市の用意した宿泊所、

この点を宿泊所、

ま、宿泊所をめぐって、昨年、

工・宿泊所をめぐって、昨年、

の、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

宿泊所、宿泊所をめぐって、昨年、

「権限」行政の下請けな々のことで、支配体制の穴埋めはや
 行政の「権限」行政の下請けな々のことで、支配体制の穴埋めはや

「権限」行政の下請けな々のことで、支配体制の穴埋めはや
 行政の「権限」行政の下請けな々のことで、支配体制の穴埋めはや

「権限」行政の下請けな々のことで、支配体制の穴埋めはや
 行政の「権限」行政の下請けな々のことで、支配体制の穴埋めはや

「権限」行政の下請けな々のことで、支配体制の穴埋めはや
 行政の「権限」行政の下請けな々のことで、支配体制の穴埋めはや

医療センターの利用は
 更生相談所を通じる限り
 1月10日まで

新今宮駅
 南橋本線
 今宮中
 南橋本線
 今宮中
 南橋本線
 今宮中

（表面より続く）
 「仕事を出して又仕事を出来るまで宿泊費を減らす
 」という二つの中心スローガンを掲げて共に闘い
 30日から更生相が開いた。
 無料宿泊所へ行こうと
 暖かい飯と布団は、去年、
 仲間が闘い取った成果。
 団結を、闘争を、

「権限」行政の下請けな々のことで、支配体制の穴埋めはや
 行政の「権限」行政の下請けな々のことで、支配体制の穴埋めはや

「権限」行政の下請けな々のことで、支配体制の穴埋めはや
 行政の「権限」行政の下請けな々のことで、支配体制の穴埋めはや

四人の仲間連行される

行政に怒り
一昨日、中野相は、河沼治所は議員と連絡し、受け付けを打ち切り、テント村から中野相入った仲間、ラーメン三皿をわたして道に送った。ところが、自衛隊の隊上には、プレハブ一棟がこれと空いている。そこには、数十人の新入者が宿舎で居るのだ。自衛隊の責任者は行動者を入れようとしはじ。また、一昨日、越冬興が自衛隊の仲間と会うため、館内に入ろうとすると、玄關の受け付けにいる職員が、越冬興に対し、しつこく口論をさせてきた。この自衛隊に対し、越冬興と、これに結果するテント村の仲間十名が、昨日、怒りに任せ、断固として抗議行動をおこした。

仲間の数人が、自衛隊の門を入るとすぐに、こぶしをふり上げ、仲間におどろかされた。腹を殴られ、思わぬ、その場にうずくまる仲間もいた。この職員の暴行に屈せず、仲間たちは、勇に、階段を駆け登ろうとする。職員どもは、後を追いかけて、背後から肩をつかみ、ひき戻しにかかった。しかし、仲間たちは、これをふり切り、屋上のフロアに逃げ込み、とりついた。あろうことか、その直後、西成署のポリ公どもがマイクワロバスで駆けつけた。そして玄關にいた仲間も、こぼれ落ちた仲間を、多数のポリ公がとり囲み、不当にも暴行を加え、けがを負わせた。やがて、ポリ公は仲間たちの抗議の人数をかきわけ、不当にも、彼ら四人の仲間を連れ去った。

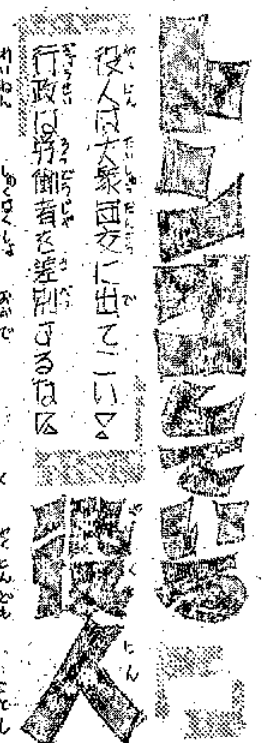
自衛隊の隊員は、暴行を許さぬ
自衛隊の隊員は、暴行を許さぬ
西成署の四名の不当逮捕を許さぬ
を許さぬ

仲間の数人が、自衛隊の門を入るとすぐに、こぶしをふり上げ、仲間におどろかされた。腹を殴られ、思わぬ、その場にうずくまる仲間もいた。この職員の暴行に屈せず、仲間たちは、勇に、階段を駆け登ろうとする。職員どもは、後を追いかけて、背後から肩をつかみ、ひき戻しにかかった。しかし、仲間たちは、これをふり切り、屋上のフロアに逃げ込み、とりついた。あろうことか、その直後、西成署のポリ公どもがマイクワロバスで駆けつけた。そして玄關にいた仲間も、こぼれ落ちた仲間を、多数のポリ公がとり囲み、不当にも暴行を加え、けがを負わせた。やがて、ポリ公は仲間たちの抗議の人数をかきわけ、不当にも、彼ら四人の仲間を連れ去った。

テント村の運営もうまく進んでいない。
昨日も炊事班の人が、医療の代行をせねばならなかった。会場の設備も、補修が必用となっている。事務所の人が不在のため、印刷に遅延はない。弊害の問題が

出ている。テント村はかうして作戦をととのえていくだけなのだ。
テントの補修、病人や体の不自由な人の世話、たき火の管理等、元気の者は、テント村を支える為に力を出しあつてほしい。

仲間は、役人に切実に会ったが、役人に聞いたことが決山ある。おびえにげまるのはいいかげんにやめて、仲間たちの前に出て来ればよい。仲間は、本端役人と大衆団交するのが目的ではなく、市当局を怒りを一手マけるのが目的なのだ。本端役人を叩き切りまじらせるのは、ほんの手はじめなのだ。



信天山 第六 追電

（のぞ）（廣井合衆）の二百二十號子の中面は、警察機動隊の国交つひに攻撃を以てのけ、所長一太田から確約書をして、所長の手元一竹野の辞任を以てつ

朝、中面は口々に所長を退去しようとい

国交をうらりと呼びかけ、一層大ホーに続々あつて、日手のはなはな用がある。ちよつと

つて、その口々に退去しようとい

所長の所長の手元を、事務所からみな前の

下呼びの口。中面の方の退去はなつて、日手

きせしめ、中面は口々に退去しようとい

は口々に、中面の退去は、口々に退去しようとい

タンのメカネの竹野は、日手退去の口々に退去しようとい

退去しようとい、口々に退去しようとい

出さぬとい、口々に退去しようとい

ボリ公の退去は、口々に退去しようとい

中面は口々に退去しようとい

あつた。みんなの退去は、口々に退去しようとい

日、ボリ公の退去は、口々に退去しようとい

しる日、竹野の退去は、口々に退去しようとい

あつた。大田は、日手退去は、口々に退去しようとい

口がねは、口々に退去しようとい

社と確約書をして、中面は口々に退去しようとい

ヤツと、口々に退去しようとい

たきち、口々に退去しようとい

所のさき、口々に退去しようとい

オク、口々に退去しようとい

ホリ公の退去は、口々に退去しようとい

ありき、口々に退去しようとい

れた。日手退去は、口々に退去しようとい

国交つひに、口々に退去しようとい

エ、口々に退去しようとい

支給し、口々に退去しようとい

言つ、口々に退去しようとい

樹、口々に退去しようとい

と、口々に退去しようとい

タ、口々に退去しようとい

病人は、口々に退去しようとい

車、口々に退去しようとい

カ、口々に退去しようとい

つ、口々に退去しようとい

と、口々に退去しようとい

、口々に退去しようとい

である、口々に退去しようとい

一、口々に退去しようとい

二、口々に退去しようとい

の、口々に退去しようとい

長瀬 隆一	上田 正	藤田 隆	大田 香
百太郎	竹野 隆	中面 隆	ボリ公
口がね	社 隆	ヤツ	たきち
所	オク	ホリ公	ありき
れた	国交	エ	車
カ	つ	と	、
である	一	二	の

どうしよう!? 打つ手が無い

注意 結核に注意

さこの医療センターに、中面友人のうち12人は結核の患者だ。なほ、四、五人のうち一人は結核だということになる。テント村をぐるりと囲まれたら、何人結核の人がいることになるだろうか。

金下三、四、五、六人が一番結核にかりやすいという調査報告がある。日産三三三三、まず体がひどく低下し、結核菌に対する抵抗力がなくなるので、トヤの中に一人患者がいると、全員が結核菌の中で蔓延していき、ということになってしまう。そういう状態の中では、病ははじまると、体の中に菌を多くもっているというか、病は患者が何人いるかわからない。三人に一人はあぶないと思っておいた方がいい。

テントの中に、さこの夜の殺害で四人の結核患者がいた。一人はテントで死んで、もう一人は病状が進行して、あと何日かのうちに死ぬかもしれない。もう一人は、あつちのうちに病状が進行して、あつちのうちに死ぬかもしれない。もう一人は、あつちのうちに病状が進行して、あつちのうちに死ぬかもしれない。

さこの医療センターに、中面友人のうち12人は結核の患者だ。なほ、四、五人のうち一人は結核だということになる。テント村をぐるりと囲まれたら、何人結核の人がいることになるだろうか。

金下三、四、五、六人が一番結核にかりやすいという調査報告がある。日産三三三三、まず体がひどく低下し、結核菌に対する抵抗力がなくなるので、トヤの中に一人患者がいると、全員が結核菌の中で蔓延していき、ということになってしまう。そういう状態の中では、病ははじまると、体の中に菌を多くもっているというか、病は患者が何人いるかわからない。三人に一人はあぶないと思っておいた方がいい。

テントの中に、さこの夜の殺害で四人の結核患者がいた。一人はテントで死んで、もう一人は病状が進行して、あと何日かのうちに死ぬかもしれない。もう一人は、あつちのうちに病状が進行して、あつちのうちに死ぬかもしれない。もう一人は、あつちのうちに病状が進行して、あつちのうちに死ぬかもしれない。

天満橋 海所に五〇名入る

勝利の「誓約書」を収める

二日午後、テント村にいて誓約書の保管されてない仲五〇名が、海所に直接行き、衛生研究所の二百数十名の仲五〇名の誓約書を集めた。誓約書の保管を市かベッドに入れた。ところが、大阪市と衛生研究所を市から下請している自衛隊職員とが、しつこく二〇五〇名の仲五〇名を追い出そうとした。この悪行は、誓約書を、さこの夕方、衛生研究所の仲五〇名が、現場責任者の我孫子を追求して、以下の「誓約書」を勝ちとる中で、打ち砕

「誓約書」の保管場所

僕は金のセンター爆破テントあげの被害者です。現在、池内君といっしょに大拘へ大阪拘置所に送られています。船本君は手配されています。同時に、少年のN君も衆議院（衆議院裁判所）で公判をやっていきます。

現在大拘には金共関係が十人近くいます。誰かが保釈になったら、りすると別の誰かが大拘にテツチあけられ大拘に入ります。だから大拘では金共の人間や、金の一般刑罰犯とされている人や、大拘にテツチあけて、しつこくシマバ（金）にいた時、おたことのあるオッサンや、成金の極道などもおかけます。やはり金が全国一極道の事務所、相場の数が多い。シマバ（葉）の相場、バグチの本場ともなっていることがわかります。また、もう一つ極道とちがっても、金の現実では人間を犯

いたのであつた。

誓約書

現在、四十八名の人々が誓約書を持たずに入所しておられますが、この人たちの経済状態は、誓約書を持っていた正装の入居者と変わりありません。誓約書のところへ返すこともあつたものはあります。

昭和五〇年一月三日

天満橋 衛生研究所 責任者 我孫子 啓

井 泰太郎

罪に就くじりこんだりするネタが、多岐にわたります。同時に、刑務所から出てきた者や百姓では食えない人間、学校へ行ってないもの、民衆やりの差別をつけてきたものは、現在の上下の差がある社会では金に集ってこざる。その人間は自衛隊に生かされているわけだ。そのほとんどのやつは、ピンハネ論判刑罰のため、金をのりまわっている。そして、何らかの形で刑務所や警察、精神病院の世話になつていく。そういう民衆や身分の差別を金の持主者内部でももつていけるが、階級としては固結します。それが、誓約書の手配師であったし、行方としては、マカも打つて誓約書にばしや、なわけです。奴らは、二つ、三つに打たれれば、二つ、三つをスキャンします。

今注：これは、新報在野から、昭和五〇年一月五日、月報から転載。

仲岡が大塚市に抗議行動 市長室に突入

きのう、テント村と信治所の仲岡は、聖く団結した一五〇名の隊列で、釜ヶ崎行動者を風巻る大塚市に怒りの抗議行動を断り抜いた。

朝八時、テント村には各宿泊所から仲岡が続々と集結し、「仕事をやせ」「無宿泊所の期間を延長しろ」と書かれたムシ口旗を先頭に、即川の準備を整えた仲岡たちは、爆竹が激しく破裂する中、テント村を赤旗を押しだして出陣した。「仲岡は仕事を紹介しろ」「職員の暴力を許さぬ」とセンター三階、職居前でシヨレビコールの後、地下鉄に乗る。敵は大塚市だ。一月三日の厚生相の団交で宿泊所とテント村の仲岡を襲殺し、自衛封じ込めの市の隊列は、暴動された大塚市を断じて許すことはさなぬ。

地下鉄の乗降場を出ると仲岡たちは、市庁舎に向けてかけ声と共に進んだ。市庁の本庁門は重く閉ざられていたが、怒りに燃えた仲岡の隊列には、何ら障害物とならなかつた。門を押し崩し、庁舎内へ仲岡たちはなだれ込んだ。「ワッ、シヨレ、ワッ、シヨレ」と暗殺をかけ登り、四階の民生局へたどり着いた。市の職員はだれも居らず、一人の仲岡により赤旗がたられられた。仲岡の怒りの前に、恐れをなしたのかいくつ待っても福祉部長の高野も、民生局長の内山も姿を現わさな

かった。「市長は出て来い」と仲岡は、三階の市長室へ向かい、ガラス戸を押し崩し、市長室に突入した。しかし、市長大島も二階まで居らず、いるのはカメラを持った天満署の私服だけだった。

我孫子追索

衛生研究所の団交

「テント村」のメンバー「シヨレ」を主張する

天満では今日も大塚団交をやった。団交には、はげの我孫子、ビビリの仕合、ポリ公まがいの前田、おかの新田が出た。新任責任者の我孫子は帯につくのを恐れ、肩こししていたが、二〇〇名の仲岡が食堂に集結し、団結して出陣を要求したので、断りつかざるを解なかつた。我孫子に自己紹介させると、うわの空で、「自分は何も権限はないから、何もやれぬ」「これは団交ではなく、話しあいだ」「10分を越らせて下さう」と繰り返し返すばかりで、「この態度に仲岡はあきれてしまった。

我孫子の片側者を恐れる態度の裏に、要求を強行にほなつてしようとする所当の反動的意図が露呈するのは明らかであった。天満の仲岡は反撃を行った。ここで、以前から約束されていて、まだ実行されていぬい事の裏面を迫り、次のように再度確約させた。

市長室を出た仲岡たちは、市庁ホールを埋め尽くし、「大塚は出て来い」「宿泊所の期間を延長しろ」「釜ヶ崎に仕事を待って来い」のシヨレビコールを、市庁舎内、バスに乗りひびかせ、隊列を整え、庁外へ出た。前庭には、機動隊の装甲車三台が待ちうける中で、抗議集会を開き、シヨレビコールを後に、市庁からひき返した。

衛生研究所の団交
牛乳の配給
六日から正解に一日の本とする。

便所の便費
六日までの利用のみのもの
献立表の張り出し
五日と八日の分を一人二枚配る
風呂等の配給
五日と八日の分を一人二枚配る
カシロリの配給
速やかに配る。

次に、市が団日から朝食用としてカップ、モデルを配るといふ件にうつつた。取らばそれが三日の厚生相団交で決まるとかの如きデマを流していた。実行者と結集した片側者は、このデマが三日の団交の行表と多くの仲岡を分断する手段であることとバツ口して断った。そして、我孫子、仕合が市に対して「モデルをやる、弁当にかりかえるよう要求することに、その答を七日の七時に天満の仲岡全員の前に話すことになった。

1975. 1. 6.

大阪夕刊

えっとう

えっとう社
日刊

所長の任期延長の協力がなくとも

天童の衛生講習所の二、百数十名の仲間たちは、「期
間延長しろ」と、所長田中元子さんを強く迫り、「期
間延長せずに止るとの確約書を書け」と、
4日の田中さんの函交を、夕方7時より、食卓を囲
み、食卓に仲間たちをそそくそと招集した。事務所へ
田中さんを呼びこいと、「10分程度だ。お、お、お
ぬがいのしする……こと、おとこしおから、おんぬの
前に現われた。仲間さん、こっそく、「お、お、お、
マードルが食べるひびきの回答を言え」と迫ると
田中さんは「コッパ、マードルをおおむびに返します。
今晩一時におおむびが到着するので、仲間さんから、交


給します」と答える。一月七日、大阪市の職員が、お
んぬんと話し合いを持ちます。場所、時間、六日に
知らせなすこと、手にしたメモを、読み上げた。仲間
たちは、最後に、自分の命を守る最も切実な要求であ
る期間の延長を田中さんに迫った。「言葉を濁入し
ます」とこれは強迫手段と見せ、仲間たちの真意を話
し合いた無視した。衛生所の所長さん、おとこしおの
い態度に、仲間たちは、あきれかえり、怒りを燃して
「お前さん、所長をやめてさえるさあんな所長と交代し
てくれ」と激しく追まら、おたつくりばかりの田中さんを断
つて押さひかた。自分自身の判断は何一つできな
い田中さんの、たびたび自強健康理事長吉村と電話連絡し

「強迫手段」

仲間たちは、強迫手段を
自分を使って強迫させ

外への譲り込みをしない事
以下、今後守らなければならない事
は、スライキも辞さない事

健康センターへ行く
健康に自信のない人へ昔は、
健康診断のついでに行こう。余計な
らない。入院する必要はなくて、
近所のよい人にお、お、お、
うことで導く所がみつけられます。
マイクで呼んだ時
葉って下さい。



JETTO

★ 原稿締切り時間 AM10
★ 取材に御都合下さい
★ 原稿用紙渡しします

組合の指示をおおく中で、「期間延長の協力がなくとも」
やうと強迫した。

強迫手段
行動者の中に衛生講習所
延長して欲しいと言った理由
強い。無料衛生講習所の延長に付
いて断口いたしました。

昭和五十年一月五日
田中元子
第五回衛生講習所臨時実行委員会 代表 田中元子
全衛生所の仲間たち 11日午後5時頃、田中さん
大阪市の 依然として昨日は、仕事の多いと聞くと
い返す態度だ。一歩も引かぬ。期間延長を求めれば
されてしまう。衛生所の団結を強め、仲間から代表を
び 大阪府を許す。現職衛生講習所 現職衛生講習所
期間の延長を強要取りつな

仲間が出せるまで
衛生講習所は、一歩も出てはいません

★ けり切らじき
勤務時間 AM10から
給与無し、カンパ出さ
★ 原稿締切り時間 AM10
★ 取材に御都合下さい
原稿用紙渡しします

強迫手段
行動者の中に衛生講習所
延長して欲しいと言った理由
強い。無料衛生講習所の延長に付
いて断口いたしました。

昭和五十年一月五日
田中元子
第五回衛生講習所臨時実行委員会 代表 田中元子
全衛生所の仲間たち 11日午後5時頃、田中さん
大阪市の 依然として昨日は、仕事の多いと聞くと
い返す態度だ。一歩も引かぬ。期間延長を求めれば
されてしまう。衛生所の団結を強め、仲間から代表を
び 大阪府を許す。現職衛生講習所 現職衛生講習所
期間の延長を強要取りつな

仲間が出せるまで
衛生講習所は、一歩も出てはいません

★ けり切らじき
勤務時間 AM10から
給与無し、カンパ出さ
★ 原稿締切り時間 AM10
★ 取材に御都合下さい
原稿用紙渡しします

うつつされるのはゴメンだ

箱根の人やテント村に何人かいるという。テントの中
にずいぶん長いメシの時分までくるが、人々もいる。
そのうちの一人は重症で、あと何日かの命だとも聞いて
いる。その人の親戚を以て、病気の身でありながら子供
を病院から引き取り、自らは病院に入ろうとしない。そ
のうち子供も箱根におかされるだろう。

一体どういふことなのだろうかと
皆さ知っていると思つた。箱根は他人にうつる病気で
あり、去程で入居が強制されることになつてゐる。なる
ほど、現在箱根の人々の多くはどくどくと思つた。しかし、病
をうつされるのはゴメンだと言いたい。とくにテント村
に居る連中では、病気の人は少い。体が衰弱し、病気に耐
える抵抗力が弱くなつてゐる人が多いのだ。

体を醫合してまきびにあたる。シメシメしたテント
の中を一語に寝る。人が多くゐる。……。そんな状態は
まるで箱根のうつしあいをしてゐるやうなものだ。

いまテントに居る箱根の人は、何處ぞ病院を強制入院
させられたりしてゐる人である。なるほどよく病状は
よいし、病いも悪いだろう。しかし、他人に病気の悪い
病気をうつす権利は絶対ないし、あるにせよ、うつすことには
ない。しかしその人達も、テント村で暮らして、一回
は医療センターに行き、なんとか入院できるやう紹介し
てもらつてゐる人達なのである。
箱根の人達の、病院にうつしてほしい。そして、しつら
く病気をなおすことばかりになり、つて、元気を顔を

来早きで升せてほしい。どうしてき病院に行くのが
やなら、テント村から出ていってほしい。一人で病
をどんでん懸くさせて、一人で死ぬばいと思つた。仲

けんかの仲裁はだれか

昨日、炊事班の竹節者がけんかの仲裁に入つてけが
をした。この事によつて炊事班は大きな被害をこうむ
た。仲間うちの団結を崩すやつは、おんねでおい
だそうと酒を飲んだとゆつた酔ひをこましてから
来い酒を飲む金があるやつはメシを食ふ区ドヤに泊
まされしかし叫ぶだけで不承不承である。必用にたじ
て突刀行儀で来る金場警備班の警備体制をしくべきで
あると思つた。
(一竹節者)

竹節者

もう十二月で今年も終る。即ち年が暮るさう
です。仕事のある時でも金の人間は苦しかつた。金
の竹節者の生活は、外の仲間からの手紙にのみと
あんとなくのけがり首をこめてゐるやうです。今年
の冬はさいがいに寒いことになると思ひます。中々
取らにやり取すためにねんとしてでる餓え死、こころ
え死をふせがなめきせん。越冬師者に支障のパンパを
したつて下さい。
医療センター建設ラッシュがすすんで、僕がサウ
ンの自供讀書をくられたので、僕が頑張らなあかんの
で、最初ソノ百回めをきいたが、天張りさんばかりに

仲間志で、病気をうつしあつて、それでは本当の仲間
同志をやつてほしいことだろう。箱根はこわい病気が
うつされるのはゴメンだ。
(一竹節者)

テント村の仲間が死んだ

昨日一月三日の夜時分ごろ、てんかんの発作で苦
しき病状へたられたが、戻つてきた。一月五日(昨日)
の夜時に発作を再発し、心臓と呼吸を停めた。周りの
者が人工呼吸と心臓マッサージをやつたが、一応救急車を呼
び、病院へ運んだが、死と診断された。彼は60才
らしいの仲間だ。
越え自谷の竹節者の団いですが、仲間の
支援やパンパを受けますが、ユヤクメト一
便業者等からの資金援助は受けてません。(合計)

竹節者

いかにいので否認野合したのです。途中から野合する
ばら最初から野合する竹節者なのですが、しゅあひか
たのです。
竹節者などのテツ子あげられれば、テツ子あげた大
口を儲けまあかん。とにかくテツ子あげられれば必
ずお判においてで無罪を証明し、一般の市民には警察
がテツ子あげをなすのこわいといふ態度を、てまらめ
まあまかせん。
とにかく世の中が豊しくくくく、てまて、金の竹節
者などの一般の竹節者と近い立場になつてきて、い
つれ共にはつてゐると思ひます。



逮捕

Yさんへの確証 2つの注意

「逮捕」されたが、さこのう警察、検察は起訴すること
もできず釈放した。と思えば又今日一日の自衛隊に
「不法侵入」したという容疑で逮捕した。

Yさんは知って居る人もたくさんいると思うが、行
政・宿若所の真ん中を、担って来た人である。面
戒署は、とにかくYさんを即ち仰面から取り離し、そ
ういふことで仰面を押しつぶさそうとしている。面戒署
のねらいは明らかである。

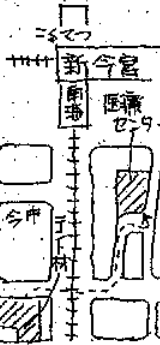
長柄寮の事件といっても、案に「入れろ、」でいい
け、で少しもめだといっただけのこと。テント村の人間
が案をたずねていくことなどは「犯罪」といふことで
逮捕されなければならぬのだから。それに二日の自衛隊
の事件ですでに四人の仰面が逮捕され、五日の裁判所
での拘留裁判では、四人とも拘留の必要性なしとされ
釈放されている「事件」である。

会出

昨日、全越後新聞発行委員会の打ち合わせ、即ち
ちびえてか、天斎の宿若所に顔を出し、説
教をくらった。当然にも仰面は徹底的に
糾弾し、叩き出した。働く仰面は一時金の
ピンハネを止めたら、越冬闘争を一新やら
ない、と面戒署を許しはしない。

皆で医病セム

「一度は医病にかかろう」
今日も集まって、テント村から医
療センターへ行く。この機会に、是
非とも医病にみてもらおう。金はい
りません。日と生且日、名前を叫
ぶだけ。療養の必要はない。働く新
が紹介す
れます。
12時迄入



この二点を許るようになってほしい、ということだ。
そして、その通りだと感じます。
面戒署ホリ公は、あらゆる手をつかって、即ち
押しつぶさそうとしている。つさらぬ我々にのらぬこと、こ
れが権力の確証から仰面を第一歩だ。

Yさんは弁護士を通じて、自分の経験から、次の二
点を伝えてきました。
逮捕には決まっていた。つまり、釈放という
二つの留意点で置かれていた大起訴(中津)の玄則を出すと
ころ、そこで、面戒署へ進行してゆくのである。
裁判所で仰面を認められれば、事件、そんな事件で
再逮捕。それは何となくYさんをシヤバに出さなければ
にすることが目的とするものであろう。

行政(市、警察)の
攻撃を粉碎し、
宿若所期間延長
仕事を
闘いとう
Yさんの
不当逮捕糾弾

テント村
宿若所の仰面から、牛乳やおやつなどの
現物パンが相文いである。行政から取り
こられた食糧の量を皆が集めて、持つて来て
くれる。……
労働者の、被抑圧人民の団結です

火をき
せつ糾し
テント村のみんなは、もう知っている
けど、テント村のたき木が不足している。
昨日は、みんなを集めたけれど、先のこと
もあるから、せつ糾して燃やすようにしま
う。みんなが注意しあおう。

宿泊所から 団結をもって

大山信

所長を引き出せる

大山信の宿泊所、マダガスカルに...

遠へ 仲間 仲う 共に

仲間者たちは、大山の口口口...

「期同正長の」として市の面影を...

藤沢合宿所...

（市職員との交渉の結果...

市長を引き出せる

天満

市長を引き出せる

今日の口口口...

宿泊

松井の役員出さず

4日、相模原市が、キリ...

「宿泊に来ただけだ。他は...

行政 職員 福利

大阪市の警察関係
警察本部の警察官
警察本部の警察官
警察本部の警察官

昨日、午後7時に天満の衛生研究所で合議せられた
二百名の仲間が集り、食糧をい、いいて理めて警察の
中で即着警備が達成された。これに引いて警察本部に
集むが時だれ、「仕事まで、てこいよ、期間延長を願
うとするよ、こきりけり、居座るよ、てこいよ、期間
その際中、警察本部を叩き出し、即着警備のため
に、警察本部と要求すると、五日に確約書を言い
だてさせ、彼ら一軍を空けた。

世の中不景気だと言
ばかり仕事がないのだと言
これは一体誰の責任なのか。
都合のいい時に「タオチ」のデズラでこき使
し、取れるだけしり取り、てこいながら、今この
って、働いてお口くすのさうに、以テラのように
り捨て、いるのは誰なのか?
社会の底辺で暮らすこの社会を支えてきたわしら
にさかかひらび、行着るよ、てこいよ、土下と差上
てきたのは誰か?
故郷の農村を破壊し、炭坑をつぶし、海をこ
く、生活を破壊し、家族を離散させ、ピンボウ人
は妻を食えと、俺たちをこ、さで追いつた、さ

の口話なのり
身体がボロボロになって死んでい、て殺され
てい、てわしらの生活い、仲間を、そして殺され
てからさあ、かい、て、そしてわしらの金を
り、身体を切りさいてはむえん、に、て
たのは誰なのか?
使、捨て殺されて、身体をささめられむえん、
これ、て、て、て、て、て、て、て、て、
り、ら、そのつひは、このない、ら、
今こそ、かりと受け止めよう。そして、わしら
を使い捨て殺し、その裏でいつかめくめくと
こえ大、て、て、て、て、て、て、て、
賣主家の下々、
行政本部、警察本部のギン、
賣主家の番犬、ボロボロ、
わしらの、警察本部は、わしらの、
むむむ、最後まで、い、い、い、い、
へスローガン、
★ 全宿泊所の延長を、警察本部、
れて、て、て、て、て、て、て、
後、て、て、て、て、て、て、
昭和五十年一月七日、天満衛生研究所、行着る、

大阪市の警察関係
警察本部の警察官
警察本部の警察官
警察本部の警察官

大阪市の警察関係
警察本部の警察官
警察本部の警察官
警察本部の警察官

きのう、大阪府がたくらんで、午後三時半より
市庁において、各宿泊所から二名合計十名による代表
との「話し合い」なるものを、全宿泊所の仲間たちは
受け入れなかった。「話し合い」とは口先だけで、警
察機動隊と結託し、仲間の団結をなんとか切り崩し、
11日には力づくでも追い出すことしか頭にない大阪府
の土儀に、わざわざ乗り込んでいくほど、仲間たちは
お人良しではない。仲間の要求に、真に受け答える用
意があるなら、なぜ大阪府は宿泊所に出て来ないのか。
仲間から仕事を奪い、11日には宿泊所を追い出そうと
している大阪府を、断じて許さない。仕事を返すま
だんご汁をすすってでも、パンの耳をかじってでも、
宿泊所へは入りつくぞ。

へ、
れた。張り、柱の立て、
気、仲間、コッを知、
して、
へ、
台、
職、
誰、

日本社会党の裏切りを訂正する

仲間との約束をばらばらにした大阪府本部三役協議

天満

全宿泊所を封鎖して

昨日、天満の仲間二百名が、社会党の大阪府本部に押しかけた。仲間は天神橋筋商店街を行進し、ピラを手にし、「市民」に釜の状況を伝えた。機動隊の壁に阻まれながらも社会党府本部に着いた仲間は、執行委員との「話し合い」を求めた。

はじめ、仲間達は「おらおら」として執行委員の奥津も、鋭い追求の前に、ついに自己批判する。「釜ヶ崎の実情について不勉強だった」と。社会党は「これまで釜の労働者を無視し蔑視してきた。社会党府本部執行委員の不勉強は、その結果だすぎない。」

全宿泊所の仲間たちも、闘いはいよいよ最終段階に突入した。大阪府は、仲間の命を守る要求を踏みにじり、11日には力づくでも追い出すかまえた。警察機動隊は、市の要請を受け、宿泊所を全面封鎖し、あらゆる大衆行動を封じ込めている。仲間たちは、ああ、もうこれまでもと絶望するのは早すぎる。決戦はこれからだ。敵と一戦交えずして降参することほど、敵を喜ばせることはない。仲間の団結した力こそが、仲間の命を守っていく。朝のセンターには、仕事は全くない。降参すれば、飢え死にだ。ここまですれば、腹をすえ、捨て身になって、全島宿泊所に立てこもろう。勝負は、11、12、13日の三日間。この三日間を居すわり続ければ、大阪府は降参せざるを得なくなる。敵と根くらべをしようではないか。仲間たちは、早速に立てこもり体制を整えよう。

興津は、次の集まりについて、府本三役と協議の上、府本部の印を押すと約束した。

(1) 明日午前10時、社会党大阪府本部の三役が市長と会う。

(2) 無料宿泊所の期間の延長、定員増を実行させる。

(3) 警察の宿泊所封鎖監視を解除させる。

(4) 港湾福祉センターの現場責任者を速かに免職させる。

(5) 仕事を宿泊所へもってこさせる。

(6) 市長及び民生局長が各宿泊所に来て労働者全員と話し合いをもてるようにする。

(7) 社会党市議は、明日午後7時、天満の宿泊所に来て労働者全員と話し合う。

怒った仲間は、食堂を集合を聞いた。「社会党は、一貫して大衆を欺き、大衆運動を裏切ってきた」「弱者救済などといっても口先だけで」「信じられるのは俺たちの団結だけだ」「居すわりで闘おう」「パクられるのを覚悟して闘おう」。社会党に対する怒りは、闘う決意を強めた。

釜ヶ崎労働者は、社会党の裏切り、敵対を決して忘れないだろう。これで社会党が、釜ヶ崎労働者に敵対する天満周辺の商店主どもに味方して無料宿泊所設立に反対したこと、アブレ政策に加担していること、宿泊所を封鎖監視している警察に味方していること、がは、きりしたといえよう。釜の仲間たち、社会党の裏切り、敵対を決して忘れるべきでない。



「全港灣建設支部団」成立会を執り行

昨来一時金からの起る資をホ、タツラに於て衆明を治め

行動者の代表團として三二面成行合の、昨日の朝セ
ンターの三階で大衆的に本質を暴露された。

アアし手当を受け取りにいたって仲間の何人の看
見出し、放棄、逃亡した越冬団員の彼らなりの説明

を求めの口々につづらつた。合の各層は仲間に影響の
いく説明ができて、大衆的に理解を受けた。センター

で組織して来た仲間達はセンター村の仲間にも説明する
よう同行を求め、奴らはセンターと作。たけ、その一

人が面成替に撤退したと述べて来た。面成
合に接して、て来たホリ共の仲間村に混入し、

仲間数名はポタチキ（運材）を食した。

仲間達は「越冬団員に於ける取り組に」機動隊に
対峙している事実センターの口々に、の期回延長

を断り取、Eと行合が宣言している宿泊所を行政
と共に打ち切らんとするのから「仕事をのこことある

とついでに行政に抗議を求めた。ところが宿泊所には
アニコで出るく、ウラリーマンで、「私はは生活が

るから越冬団員は入れない」など、仲間達を馬鹿に
たつた内情であった。

生活があるから、急いで行動者がアマアらうが、理
死しうが、知らんといつの日手前勝手な言い分だ。

道は察、ホリ共の考えが、ないか、仲間を団結して
皆でまき乗りきろうとしていた。面成合は越冬で、

ターなと宿泊所の同意を知ろうとしていた。奴ら

が越冬延長を勝ち取れたのは、五五宿泊所を多くの
面成団、Eの成生話が動いたのではまいか。団結を

弄権」をロスを権ととり直せる奴らに「仕事をこせ」
と任じられるのか。

センターで「センター村に来て行動者と合え」と言が
口々に叫ぶとき、合の奴らは身もたえして拒否し

た。仲間と話し合うことができればかりげ恐じがる合
合は一体何者のものだろう。

仲間達は「越冬団員、何もしないのは何の利だ
味方面しながら、何をせよ利した裏切者面成

合、宿泊所に仲間を断り、越冬団員に行動を自断ん
て、往来一時金から強制的に口金を取り上げた。生

てがあるから越冬団員をいれ、面成合、敵に
て団々のと同様に、味方面の裏切者に仲間達を拒す

るだろう。粗糲的に仲間の後方から襲ってきた裏切り
者は、表裏をみせらし、団結を断りしている。

行動者内部の日和見分子は、口先で裏付けのいい顔
目をとるながら仲間をせよ敵を利し、私利私欲をせら

めく仲間達を裏切ってきた。大衆の意欲、行動は邪魔立
てとする彼らに何らかの処置を施すであらう。

信太山に監獄出張、府警の機動隊は早朝より深夜
まで、議決会館の出入口をかため、きつて宿泊者のかち

とつた無料宿泊所を、臨時の監獄のようにしてしまっ
た。出入りの労働者に、いろいろ証明書を提示させ

疑い深く、顔のそと、時にホリ共のマップをせ
身体検査をしている。全く許すことのできぬ非道であ
る。所長太田の態度も急になるが、ごうまんな

った。昨日には必ず全書出出してやるとの、大阪市
と民生局高野等の腹案に陰謀であることははっきりし

ている。センターにはまだ青カシしている労働者が
くさんいるのに、議決会館にはまだ数10名の労働者が

入れる余裕がある。しかし絶対的にこれらの仲間たちを
入れることはせぬばかりか、昨日、宿泊所がないとい

うただそれだけで、ホリ共にとつたけりて断つて
また仲間もいる。まだまだ俺たちは、ホリ公や資本の

手先の役人どもと闘わなければ、信太山の監獄状態は
なくならない。現在、二百余名の仲間たちは、一層団

い気持で、仕事もつていって頭張っている。

えっつ編集室

★ 投稿者からの疑問がありま
したので、白紙えっつ編集室
の機軸紙をばなく、越冬団員を
団結主体の立場から報道するこ
のです。従って、内容が事実
編集室

▲ 前後関係の追求、論評とい
う形となります。読者諸君にお
いては本紙をお読みの上、判断
すべしのことを願
すべしのことを願
すべしのことを願
すべしのことを願

大阪市は今朝、宿泊所を閉鎖しようとしている

行動者、仲間、同様の誓い
昨日の夜、市庁舎にテント村を設け、無料宿泊所や村を中心とした越前同歩会、この多くは仲間達の思いが込められた「越前」の村が、

「仕事がないので、仲間を遣い出して、市民生活」
昨日の夜、越前同歩会が市庁舎にテント村を設け、無料宿泊所や村を中心とした越前同歩会、この多くは仲間達の思いが込められた「越前」の村が、

「仕事がないので、仲間を遣い出して、市民生活」
昨日の夜、越前同歩会が市庁舎にテント村を設け、無料宿泊所や村を中心とした越前同歩会、この多くは仲間達の思いが込められた「越前」の村が、

仕事のない仲間を放り出して殺すついでに、

「仕事がないので、仲間を遣い出して、市民生活」
昨日の夜、越前同歩会が市庁舎にテント村を設け、無料宿泊所や村を中心とした越前同歩会、この多くは仲間達の思いが込められた「越前」の村が、

「仕事がないので、仲間を遣い出して、市民生活」
昨日の夜、越前同歩会が市庁舎にテント村を設け、無料宿泊所や村を中心とした越前同歩会、この多くは仲間達の思いが込められた「越前」の村が、

「仕事がないので、仲間を遣い出して、市民生活」
昨日の夜、越前同歩会が市庁舎にテント村を設け、無料宿泊所や村を中心とした越前同歩会、この多くは仲間達の思いが込められた「越前」の村が、

仕事をめこせ、俺達は殺られたら殺し返す

「仕事がないので、仲間を遣い出して、市民生活」
昨日の夜、越前同歩会が市庁舎にテント村を設け、無料宿泊所や村を中心とした越前同歩会、この多くは仲間達の思いが込められた「越前」の村が、

「仕事がないので、仲間を遣い出して、市民生活」
昨日の夜、越前同歩会が市庁舎にテント村を設け、無料宿泊所や村を中心とした越前同歩会、この多くは仲間達の思いが込められた「越前」の村が、

「仕事がないので、仲間を遣い出して、市民生活」
昨日の夜、越前同歩会が市庁舎にテント村を設け、無料宿泊所や村を中心とした越前同歩会、この多くは仲間達の思いが込められた「越前」の村が、

利権争奪地獄

高橋事務

テント村が本日もついで閉じられる。12月28日、テント村解散以来我々はここで多くの働く仲間を生きてきた。殺り返すための回結を打ち固めて来た。年間三百人以上の仲間が、行路病死者といふ名のもとに殺されて行く。凄惨の現実、この貧困と悲惨、搾取と収奪、抑圧と差別、これをもたらしして来た奴ら、資本家、ポリ公、市行政、地政、マス、そして諸々のハイエナ集団、人をもとも考えぬ取、悪徳非道な奴らに今日も多くの働く仲間が、殺りつけられ、さげすまれ、非人間化され、殺されていく。しかし我々は、殺りつけられはしない。敵の圧倒的包囲の中で

始った五回回の越冬闘争は、幾ヶ所活動者の解放に向けたく人権性に於ける自己表現を全面崩壊させた。仲間を取った人、ハトロール、ナベとカマの中で仲間を離れ、回結を打ち固めた。越冬闘争。市長、知事までをこめこみつつかまえた行政闘争。一糸ひかれぬ回結を打ち固めた。回結の精神を所々の仲間。用と戦ったテント村。健康原理の医療闘争。ポリ公の不当逮捕者を今も奮闘し続ける救済。各分野で打った。はい、闘った。そして闘いを支えた多くの支援。我々の闘いは道理があった。そして敵には全く道理がないことがハッキリした。見せられたの機動隊の暴行をもって闘いを再行し、正義に変わるとする取らざるに闘いは

準備の目的

テント村での炊きだしも、今日の朝メシが最後になる。半月近くテントを張り、最高一回干食もの食事を造った。テント村のメシを食った仲間を考えてもらいたい。向の島に生き延びたの話を。コ生きて取らなければ返せぬが越冬のシロコシだった。果してこれだけやり返せたのだろうか。テント村がなくなり、炊きだしが終わっても、ひとり一人が、向のために生き延びたかを考え、再び闘いを準備するために、いかに自己をきたえるか、いかにして反撃するかを、考へ始めたい。炊きだしの準備の任務もまた、終わらせないでいよう。

緊急目録

救援会

加しゆを未む

今日までに、越冬闘争で延べ十四名が逮捕された。そのうち一名が「起訴」され、九名の仲間が拘留されている。更に今後、越冬闘争に闘う仲間への警察の不当強圧―逮捕が予想される。即ち仲間を取りかえし、弾圧を止めなければならない。庄原に、圧倒的カンパをお願ひします。

西成区太子町一丁目一〇の五、野鳥の会に申し込んで取りかえらるる仲間を返せ

大団結 回結回結

五回回の越冬闘争の経緯は、いざれば活動者の強固な回結を打ち、奴らの暴力を、暴力でもって打ち砕く闘いである。我々は、今もこの世の中に回結と悲惨、抑圧と差別が続く限り、我々は闘いを続けて行かなければならぬ。

我々の闘いは道理があった。そして敵には全く道理がないことがハッキリした。見せられたの機動隊の暴行をもって闘いを再行し、正義に変わるとする取らざるに闘いは

今我々はテント村を閉じようとしている。これは、我々の働く仲間が解放されたからではない。解放への道程は、さらに続くのである。今、敵にその身をなげられている九名の仲間が我々の手に奪還されるまで、そしてこの世の中に回結と悲惨、抑圧と差別が続く限り、我々は闘いを続けて行かなければならぬ。

今日までに、越冬闘争で延べ十四名が逮捕された。そのうち一名が「起訴」され、九名の仲間が拘留されている。更に今後、越冬闘争に闘う仲間への警察の不当強圧―逮捕が予想される。即ち仲間を取りかえし、弾圧を止めなければならない。庄原に、圧倒的カンパをお願ひします。

西成区太子町一丁目一〇の五、野鳥の会に申し込んで取りかえらるる仲間を返せ

今我々はテント村を閉じようとしている。これは、我々の働く仲間が解放されたからではない。解放への道程は、さらに続くのである。今、敵にその身をなげられている九名の仲間が我々の手に奪還されるまで、そしてこの世の中に回結と悲惨、抑圧と差別が続く限り、我々は闘いを続けて行かなければならぬ。

（嵐）